

1 Fa-5 アメリカ家政学の系譜 ―学会誌分析― (第15報) 年次大会特集号
○田崎裕美* 東珠実*² 渥美美晴*³ 柿野成美*⁴ 古寺浩*⁵ 鈴木真由子*⁶
増田啓子*⁷ 吉本敏子*⁸ 村尾勇之*⁹

(○日本大短大(非)*、椋山女学園大*²、(株)アルバイトタイムズ*³、(財)消費者教育支援センター*⁴、
金城学院大短大*⁵、新潟大*⁶、常葉学園短大附属環境システム研究所*⁷、三重大*⁸、東京家政学院大*⁹)

【目的】これまでアメリカ家政学会誌分析を通して、研究領域別研究内容・学会会則の目的条項・年次大会統一テーマについて歴史的変化を検討し、アメリカ家政学の動向から家政学の本質を求めるための研究を重ねてきた。本報で研究対象とした年次大会特集号「Annual Meeting Issue」(1948年～1966年)「Annual Meeting」(1967年～1971年)は23年間にわたり9月号として発刊された学会誌である。その内容は年次大会統一テーマに関する講演、学会長の挨拶、大会報告等からなり、それ以外の号とは構成が異なることから、年次大会特集号のみを対象として研究することとした。本報では年次大会特集号の内容分析を通して、年次大会特集号からみたアメリカ家政学の動向について把握することを目的としている。

【方法】①年次大会特集号の内容からアメリカ家政学会の歴史的動向を明らかにする。
②年次大会統一テーマ関連の講演内容や大会報告(ハイライト)を通して、年次大会で統一テーマがどのように扱われたのかを明らかにする。

【結果】①年次大会特集号が初めて発刊された1948年は学会の広報活動が拡大した年である一方、発刊されなくなった1970年代は1974年より学会誌とActionが隔月発刊されるなど広報活動に大きな変化がみられた年代であった。②年次大会統一テーマ関連の講演や討議の内容から、この間、学会の新たな活動や研究の方向性がどのように提起されてきたのかが明らかとなった。